

国際会議「世界秩序の未来と核：広島から考える一抑止・戦略、 軍縮・軍備管理、人道的影響の現在地」を開催しました

7月1日(土)に、国際会議「世界秩序の未来と核：広島から考える一抑止・戦略、軍縮・軍備管理、人道的影響の現在地」（笹川平和財団主催／広島大学平和センター共催）を開催しました。

当日は、前日からの雨で交通機関に大きな影響が出たにもかかわらず、約80の方が参加しました。また、YouTubeによるリアルタイム配信も行いました。

会議には、国内外から7人の著名な専門家の方々にお集まりいただき、核抑止と核戦略、核軍縮・軍備管理、人道的影響について議論を深めました。

基調講演では、「世界秩序の未来と核：広島から考える」と題し、一橋大学の秋山信将氏、防衛研究所の高橋杉雄氏による基調対談、両氏と川野徳幸平和センター長の3人による基調鼎談が行われました。

セッションⅠでは、「安全保障と核」と題し、友次晋介平和センター副センター長をモデレーターに、スピーカーとして高橋杉雄氏、米国元国防次官補代理のElaine Bunn氏、サザン・メイン大学のRebecca Gibbons氏にご登壇いただき、ウクライナでの戦争等によって、近年一層顕在化された大国間競争の復活と、国際秩序の動揺の中、安全保障における核兵器の意味、役割がどのように変化したのか、また今後変化していくのか、冷戦期以降の核兵器をめぐる安全保障上の二つの大きな論点「核抑止」、「軍備管理・軍縮」はどのような新しい議論と視点が必要なのか、人道的視点の欠如や忘却の影響と人道的議論の課題と共に議論しました。

セッションⅡでは、「グローバル・アジェンダとしての核」と題し、秋山信将氏をモデレーターに、スピーカーとして東京大学の鈴木一人氏、戦略国際問題研究所のJane Nakano氏、ペンシルバニア大学のFiona Cunningham氏にご登壇いただき、近い将来国際社会でより大きな力を持つと予想されるグローバルサウスの新興国の多くは非核兵器国で、グローバル社会はさまざまな政治的立場や問題群が錯綜した複雑なものに変化している中で、経済、技術、環境など、さまざまなグローバル課題と結びついている「核」の現実と複雑性を増す課題への理解を深め、今必要な議論のキギを探りました。

セッションⅢでは、秋山信将氏がモデレーターを務め、スピーカー6人の先生方、川野平和センター長と総合討論を行い、さらに議論を深めました。



笹川平和財団 角南篤理事長の挨拶



川野徳幸平和センター長の挨拶



基調対談の様子



基調対談での高橋杉雄氏



基調対談での秋山信将氏



基調鼎談の様子



基調鼎談でコメントする高橋氏



基調鼎談での川野平和センター長



セッション I の様子



モデレーターの友次晋介副センター長



スピーカーの Elaine Bunn 氏



スピーカーの Rebecca Gibbons 氏



セッション II の様子



モデレーターの秋山信将氏



スピーカーの鈴木一人氏



スピーカーの Jane Nakano 氏



スピーカーの Fiona Cunningham 氏



セッションⅢ（総合討論）の様子



会場の様子

【お問い合わせ先】

広島大学平和センター

E-mail : heiwa * hirosima-u.ac.jp （注： * は半角@に置き換えてください）